

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290201120		
法人名	有限会社 RAIMU		
事業所名	グループホーム ほほえみ	ユニット名	はな・そら
所在地	長崎県佐世保市萩坂町1750-1		
自己評価作成日	平成29年11月7日	評価結果市町村受理日	平成30年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成29年11月27日	評価確定日	平成29年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症介護指導者である管理者を中心に地域での暮らしが継続していけるよう、地域住民の方々、協力医療機関などのご協力を頂きながら、日々理念である「らしく、いきよう、むげんに」を念頭に認知症ケアに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームほほえみ」は2ユニットあり、両ユニットの職員が協力して散歩に行かれる時もある。男性職員に布団の干し方を教えて下さる入居者もおられ、干し柿作りや菜園等でも入居者のお力が発揮されている。書道が得意な方もおられ、お正月や行事の時などに書いて下さり、裁縫が得意な方は縫物をして下さっている。食事の重要性も理解し、“手作り”を続けてこられたが、職員体制の関係もあり、現在は業者が調理したものを活用している。月に数回は入居者の方々や調理をしたり、おやつ作りをする機会が作られており、今後も一緒に買い物をしたり、調理をする機会を増やしていきたいと考えている。職員の人員体制を整える努力も続けており、代表は県の人材確保事業を活用して、人材確保を社会全体で共有し、検討するためのセミナーを開催した。佐世保市の市長や高校生、PTAの方々も参加して下さい、介護の仕事と一緒に考える機会になった。日々の生活では「誕生日個別支援」を継続し、入居者の方々の笑顔を引き出す取り組みを続けているホームであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や研修、カンファレンス等に運営理念を意識できるような内容になっている。常に、理念を意識してもらう事で、理念の共有を行い、実践に繋げている	「その人らしさを大切にして、生きがいを持って生活が送れるように…」という理念を大切にされている。“その人らしさ”を大切にするために生活歴を把握し、培ってきた事を日々の生活で発揮して頂いている。今後も食の楽しみを増やし、子ども達との交流も増やしていく予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様は、もともと地域に住んでおられた方が多い。その交流が途絶えることがないよう、地域行事に積極的に参加したり、また、今年から、地域の方に参加して頂ける夏祭りをホームで開催している	地域の夏越祭り、中学校や町内運動会など、入居者も職員と参加している。中学校の職場体験もあり、風船ハレー大会に向けた練習試合を楽しまれたり、小学生の訪問もあり、会話などを楽しまれた。ホーム主催の夏祭りも開催でき、来年度の開催に向けて反省会も行われた。	子ども達が大好きな方々が多く、地元の保育園児との交流を深めていくと共に、来年度は公民館祭りに作品(貼り絵)を出品したいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々は、認知症に対し理解をされている方が多く、散歩や買い物、外出時など、いつも暖かく見守って下さり、時には、励ましの言葉を掛けてくださる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員をはじめ地域住民の方や有識者の方より地域性などを学び、外出等のきっかけになっている。また、施設での生活等についても、運営推進会議にて報告を行ない、様々なアドバイスを頂いている	入居者の状況や職員の人員体制、日々の取り組みや行事等を報告している。28年度に初めて開催したホーム主催の夏祭りのご意見を頂き、次年度の対策を考える機会になった。参加者の方から地域情報を頂いたり、派出所の方から高齢者の事故等を教えて頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会社代表は、市からの依頼で様々な形で高齢者支援に携わっている	代表は認知症介護指導者として長崎県下の地域包括会議等に参加し、様々なアドバイスをしている。必要に応じて代表が市の担当者にホームの実情を報告しており、密に情報交換を行うように努めている。今後は他の職員も行政と関わりを持つ機会を作っていく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は実施していない。定期的に勉強会を開催したり、会議で議題に取り上げて、理解を深めている	入居者にとって身体拘束は苦痛である事を職員は理解している。日々の生活の中で入居者個々の混乱に向き合い、原因を分析している。少しでも安心できるように検討しており、穏やかに過ごされている方が多い。主治医にも相談し、適宜アドバイスを頂いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけではなく、言葉の暴力についても研修を行い、防止、廃絶に取り組んでいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の方との連携は取れている。3ヶ月に一度程度の訪問時や、電話や手紙等で近況報告を行ない、後見人にも情報を把握してもらっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約の内容説明を管理者が丁寧に行い、利用者様やご家族様にご理解ご納得を頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来ている。運営推進会議のほか、日々の入居者様との会話、面会時での家族様との意見交換などで、できる限り多くの意見を頂けるように努めている	面会時等に健康面や暮らしぶりを報告している。体調変化時は電話で報告し、家族からも不安や要望を伝えて頂いている。「散歩に連れて行って欲しい」等の要望を叶えると共に、日々の食事に関する要望も頂き、入居者の方と食事を作る機会を増やされている。	足湯やドライブ等の写真を撮り、2階に上がる階段に掲示したり、ホームページや通信に載せている。今後は日常生活の場面(体操、掃除、調理、リハビリ、レク等)の写真を掲示し、日々の活動状況を家族と共有できればと思っている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は毎月の職員会議やカンファレンスに積極的に参加し、職員の意見や提案を聞いている。また、そのことに対して、否定的な言葉は使わずに、現実や実行に向けての話し合いが職員間でできるように促している	代表、副施設長、管理者、主任等に相談でき、会議等で代表と運営について話し合う機会も作られている。職員の人員体制を整える努力も続けており、採用面接は職員がしている。職員個々の能力(料理、踊り、メンテナンス等)も発揮されており、職員同士の助け合いも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、自らホームに出向き、職員へ意欲向上するような言葉掛けをしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会の開催の他、入居者様の個別の対応についての勉強会など、代表者からの発信で始まることが多い		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、研修や地域交流会への参加を管理者だけでなく、職員への参加も促し、実際にリハビリテーションや消防訓練等にも参加して交流が出来ている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご自宅訪問や事前の面会で、アセスメントを実施し困っていることやご家族の要望等を確認してケアの実践をしている。入居後も不安にならないよう、1対1で職員が寄り添い不安の軽減に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご自宅訪問時や事前の面会等で、ご家族からの不安やご要望に耳を傾け、それを踏まえた上でケアを実践することで不安感の解消に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者やご家族とコミュニケーションをとりながら聞き取りを行い、入居者の状態をみながら、必要としているサービスを提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜切りや食器洗い、新聞折り、洗濯物たたみなど、それぞれに出来ることを、入居者様にお願ひして、実施して頂いている。日課として取り組まれ、役割分担が出来てきている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	協力病院での検査の付き添いや、協力病院以外の受診をご家族にお願ひしている。誕生会や敬老会、夏祭り、個別の外出支援にもご家族をお招きして一緒に実施している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人との会話を大切にしながら、話題に出てきた馴染みの人や馴染みの場所との関係は、途切れることがないように努めている	地元の方の入居が多く、入居者同士が馴染みの方々である。ご近所の方も顔馴染みの方がおられ、病院のリハビリ室で再会を楽しまれている。散歩を兼ねて自宅訪問したり、地元の祭りに参加しており、馴染みの美容室に親戚と行かれたり、家族と同窓会やお墓参り等に行かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様は日々の生活の中でお互い声を掛け合ったり、病気の時はお見舞いをされたり、誕生日を一緒にお祝いされたり、良好な関係を保たれている。孤立しがちな入居者様に関しては職員が間に入ることで、トラブルを未然に防いでいる		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などの理由で退去された方に関してはお見舞いに行き、関係を継続できるように努力している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、会話や行動を通じて意向を読み取り把握できるように努力している	「その人らしさ」を大切に、お化粧を継続できるようにしたり、「お酒を飲みたい」と言う方は敬老会等で要望を叶えている。農家をされていた方は家庭菜園をして頂き、「温泉に行きたい」「家族に会いたい」「パチンコに行きたい」等の願いを家族と協力して叶えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からこれまでの暮らしや馴染みをご本人やご家族にお尋ねして把握。入居時にはなるべく近い環境で生活して頂けるようお部屋の工夫をご家族にお願いしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	管理者、スタッフ間で口頭で伝えあう他、経過支援記録、申し送り帳などを活用し現状の把握できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中でご本人の思いを把握できるようにしている。介護計画作成の際は、ご家族の意向を確認後、カンファレンスを開き全員で作成している	入居者の「できそうな事」「要望」「症状」等を共有している。「できる事は自分でしたい」という要望もあり、食器洗いや家庭菜園等を盛り込んでいる。「自分でトイレに・・・」等の短期目標も具体的にするように努め、実施記録を残すと共に、実施できなかった時は原因分析をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過支援記録を作成し、個別に記録を作成している。職員申し送り帳や往診時の記録等を個別にして、誰でも共有できるようにしている。それを元に介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅に帰宅することが困難な方の、職員による一時帰宅支援や、入居者様の希望を聞いて支援を行う誕生日個別支援等、入居者様のその時々ニーズに応えられるよう支援を行っている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材の買出しで馴染みの店に買い物に言ったり、ベランダで菜園を行い、個人個人が力を発揮して生活ができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様・ご家族が希望される病院を受診できるように支援している。受診の際は近況を予め書面で報告する事ができるよう支援をしている	看護師に体調変化等を報告している。往診も受けられ、早期対応に繋げている。家族が受診介助される時はバイタル等を記録したノートを持参して頂いている。「最後まで自分の足で」「自分で動けるように」と言う思いで職員は介助しており、職員全員で医療知識を高めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師、訪問看護の看護師に日々の介護の中の気づきや不安点などを相談を行い、受診や看護に繋げることができている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、ご家族と連携をとりながら、お見舞いを行い、その際、病棟看護師やMSWと連携を取り早期退院に向けての話し合いや、ホームへの受け入れに向けての準備について確認を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期、看取りと段階を踏んで、その都度ご家族、職員間で話し合い、ご本人・ご家族の意向に沿った支援を提供できるようにしている。また主治医にも、指導や助言を頂き、入居者の状態に応じた支援を提供している	ホームの看護師と医療機関との連携ができている。主治医から褥創予防のケアを含め、様々な指導を頂いている。夜間の緊急対応も協力医療機関と連携を図り、職員の安心になっている。1年間で1名の看取りケアが行われ、職員が、ご本人を抱きしめる場面もあり、ご本人も涙を流された。家族もゼリー等を持参して下さった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会の開催や、訓練等を実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	訓練は定期的実施できている。災害の際は地域に知らせる設備がある為、地域住民の協力を得られることができる。水害時には、フロアを緊急避難場所として開放できるよう準備している	年2回の訓練時は消防署員も参加して下さっている。「よく勉強している」と評価をして頂くと共に、避難方法と留意点の指導をして下さった。消防団も出初式の時にホームに来て下さり、図面も渡している。代表が日本各地の施設と災害ネットワークを持っており、代表は現在も大分県と熊本県の災害支援を続けている。缶詰等を含めた食料を3日間分準備し、貯水もあり、浄化水として使用できる。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導の声掛けは特に気をつけて行っている。入居者様のプライドやプライバシーを損ねることがないように、個々が言葉遣いやトーンに注意を払い、不適切と感じた場合はお互いで注意あっている	入居者の喜怒哀楽に寄り添い、行動の背景にある心理や原因を分析している。代表は常に人生の大先輩への敬意を持って寄り添われており、職員も同じ思いを共有している。時に否定的な言葉を使ったり、語気が強くなる時もあり、その都度の指導が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り、入居者様のペースに合わせて生活できるように努めている。日常生活においても飲み物や洋服等自己決定を促し、食事においても入居者様の希望を聞いてメニューの決定につなげている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた業務を優先するのではなく、その時々入居者様のご様子や、希望に合わせて、時間調整を行いながら、支援していくように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族にも相談しながら、入居者の好みに合わせた、身だしなみやおしゃれができるように努めている。訪問カット時に、本人の希望を聞き、パーマやカラーなど好みの髪型にされている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話をしながら入居者様と一緒に調理や盛り付け、後片付けを楽しんでいる。調理への関わりを持っていただくことで食への関心も高まっている。また食事の際も、会話にメニュー等の話題を取り込んでいる	29年5月から3食共、宅配を利用している。栄養バランスも整えられ、カロリー計算もされており、ムース食は栄養価が高く、味付けも好評との事。職員は食事を大切に考えており、月数回は手作りする日を設けている。入居者も包丁で食材を切ったり、盛り付け、食器洗い等をして下さっている。	今後も入居者と一緒に調理できる機会を増やしていきたいと考えている。食材の買い出しから関わられるような機会を作り、バイキングや季節のメニューを取り入れた行事を行い、更なる楽しみに繋げていく予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの好みや摂取量の把握はもちろん体調や状態に合わせて、刻み食やミキサー食の提供を行い、栄養や水分補給ができる支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを実施している。義歯や自歯がない方に関しては口腔ティッシュや口腔ジェルなどに用いて行っている。最後に口腔内に残渣物がないか確認を行っている。磨き残しが多い方は職員と一緒にやっている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して適切に声掛けを行うことで気持ちよく排泄していただく	排泄チェック表を活用し、便秘の時は看護師が摘便等をしている。下着を着用し、排泄が自立している方もおられ、ご自分で居室のカレンダーに排泄記録をされる方もおられる。必要に応じた誘導を行い、なるべくトイレで排泄できるようにしており、職員同士でパッドの大きさ等も検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多くとれるような食事の提供したり、腹部マッサージ、足上げ運動など実施してなるべく薬にたよらず、自然に排便できるような支援を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には、1日おきに週3回の入浴を実施しているが、倦怠感や不快感などを確認しながら希望に応じて、時間帯や、日数の調整を行っている。	入浴好きな方が多い。入浴習慣(湯温、体を洗う順番等)を伺い、体調に応じて2人介助で湯船に浸かれている。入浴時は職員との会話を楽しまれ、歌も聞かれ、手踊りもされている。柚子湯や入浴剤も使用し、香りを楽しまれている。入浴できない方は清拭等を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類など馴染みのあるものをなるべく使用して頂くようにしている。眠れない方には、無理強いせず、飲み物などを提供して、リラックスして頂き休んで頂く		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を各ユニットに配置して、職員がいつでも確認できるようにしている。変更があった際は、変更の経緯を経過支援記録や申し送りノートに記入して周知を図っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活習慣や生活歴などから、それぞれの楽しみを提供している。家族とも常に情報交換をおこないながら、楽しみをもって生活ができるように工夫を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や遊戯など、ご本人が行きたかった場所、食べたいものが実現できるよう、ご家族と連携して支援を行っている。また、日常的に散歩の声掛けを行い実施している	介護計画にも散歩を盛り込み、天候の良い時はホーム前の駐車場に出たり、周辺を散歩されている。ユニット毎に心身状況が異なるが、ユニット同士で協力して散歩に行かれる時もある。自宅に行かれたり、西海橋公園での花見(桜)、川棚の足湯温泉、海等へのドライブ、回転寿司などの支援を行っている。	



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の希望に応じて、いつでもお金を使えるように対応している。施設で預かることを、説明を行うことで安心感を持たれている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書中見舞いや年賀状等ご利用者に書いて頂いている。また、お孫様と交換日記をされている入居者様もおられ、職員と相談を行いながら、文面などを考えている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度を調整して過ごしやすい環境づくりに努めている。テーブルには季節の花を飾り、季節を感じて頂いている	天井が高く、フロアも広く、冬はこたつを置き、団欒されている。床は滑りにくく、柔らかい素材が使われ、転倒時の衝撃を和らげており、開設以来、転倒時に骨折された方はおられない。広いフロアには複数の畳椅子があり、思い思いの場所に座って過ごされている。今後も季節の飾りつけ等を増やしていく予定である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	たたみやソファー、冬場はこたつを出して、気が合う人同士がくつろげる空間を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前に使い慣れた家具や寝具など継続してお使い頂けることをお伝えして、想い出の家具や使い慣れた寝具で居心地よく過ごされている	居室入り口に大きく名前を表示したり、入居前のアパートの部屋番号を表記している方もおられる。筆筒や椅子、鏡台等を持ち込まれ、お位牌に手を合わせている。娘さんが手作りした小物を愛用する方や、家族の写真等を飾られ、ホキで掃除をされる方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室全体がフロアから見渡せ見守りができるようになっている。トイレなどの居室などの入口に、入居者がわかりやすいように案内板を設置している		